

1. 矢川克郎他. ICHにおける医薬規制国際用語集作成の現況と残された課題. 月刊薬事. 38,1003 (1996)
2. 津谷喜一郎. MEDDRA. 日本の見方. 月刊薬事. 38, 993 (1996)
3. 手塚日令二. 医薬品情報伝達における ICH の成果 MedDRA. 月刊薬事. 39, 2447 (1997)
4. 手塚日令二. ICH の医薬品規制用語集 (MedDRA) の開発と用語の標準化. あいみつく. 19, 10 (1998)
5. 櫻井靖郎. ICH 医学用語集 MedDRA について. 医薬品研究. 29,(5) 388(1998)
6. 手塚日令二. 医薬品規制用語 (MedDRA) の現状と将来展望. ファルマシア. 35,1047 (1999)
7. 平松和好. MedDRA 日本語版の作成状況及び概要について. 医薬品研究. 30, (2) 92 (1999)
8. 中村陽子他. MedDRA の利用について. 医薬品研究. 31, (6) 421 (2000)
9. 矢川克郎. JMO その存在意義. 医薬品研究. 31,(6) 427 (2000)
10. 櫻井靖郎. MedDRA の日本国内導入,過去のデータ移行と新規データ入力. 医薬品研究. 31,(6) 432 (2000)
11. 伊藤哲夫. MedDRA/J のメンテナンスについて. 医薬品研究. 31,(6) 444 (2000)
12. 伊藤哲夫他. ICH により作成された国際医薬用語集 (MedDRA) 医学のあゆみ. 193,(12), 976 (2000)
13. 赤城典子. ICH 医学用語集 MedDRA について. 日本薬剤師会雑誌. 52, 83 (2000)
14. Yokotsuka M. , A. M. , Kubota K. "The use of a medical dictionary for regulatory activities terminology (Med DRA) in prescription-event monitoring in Japan (J-PEM). ". International Journal of Medical Informatics. 57. 139-153(2000)
15. 高橋 弘充, 高瀬 浩. 標準化医学用語辞書 MedDRA の利用を考えるー治験実施管理システムにおける MedDRA/J を組み込んだ有害事象報告システム. 医療情報学連合大会論文集 20 回. 904(2000. 11)
16. 佐藤 嗣道, 河辺 絵里, 久保田 潔. 日本版処方-イベントモニタリング(J-PEM)における MedDRA 用語選択の考慮点. 医療情報学連合大会論文集 21 回. 258-259(2001. 11)
17. 河辺 絵里, 佐藤 嗣道, 溝越 恵美子, 小林 美規, 久保田 潔. MedDRA/J の日本語環境に特有の問題 MedDRA/J 利用会員に対するアンケート調査の結果. 医療情報学連合大会論文集 21 回. 283-284(2001. 11)
18. 河野 光男, 高橋 真也, 上原 恵子 他. MedDRA/J 用語と添付文書用語, 医薬文献用語との自動関連付けシステム構築. 日本薬学会年会要旨集 122 年会 4 号 119(2002. 03)
19. 手塚 れい二. メディカルライティング教育コース 医薬情報用語の管理. 薬理と治療. 30 巻 7 号 515-517(2002. 07)
20. 鈴木 博道, 折井 孝男, 鎌田 志乃ぶ, 他. 医薬情報管理ツールとしての国際医薬品規制用語集 (MedDRA/J) 評価の試みー病名用語について. 医療情報学連合大会論文集 22 回. 744-745(2002. 11)
21. 河辺 絵里, 久保田 潔. 副作用の未知・既知の判断に関する MedDRA/J 用語の問題 MedDRA/J 利用会員に対するアンケート調査の結果. 医療情報学連合大会論文集 22 回. 514-515(2002. 11)
22. 佐藤 嗣道, 久保田 潔. 日本版処方-イベントモニタリングにおける MedDRA 使用の実際. 医薬安全性研究会会報. (0288-2906)47 号 15-22(2002. 12)
23. Jiang Guoqian, Ogasawara Katsuhiko, Endoh Akira, Sakurai Tsunetaro. UMLS semantic type groups を使用した日本での対照臨床術語の適用判定 (Coverage Evaluation of a Japanese Controlled Clinical Terminology Using the UMLS Semantic Type Groups)(英語). 医療情報学連合大会論文集 (1347-8508)23 回 Page925-926(2003. 11)

24. 折井 孝男, 武隈 良治. 医薬品情報の展開を考える 安全性情報から標準病名,ICD-10,MedDRA まで. 医療情報学連合大会論文集 23 回 155-156(2003. 11)
25. 小山 弘子. E2B(M)ガイドラインの運用の動向. 医薬品研究 35 巻 2 号 115-121(2004. 02)
26. 林 憲一. ICH の最新動向について 日米 EU 医薬品規制調和国際会議ワシントン会議(運営委員会/専門家作業部会)の結果について(解説). 医薬品研究 35 巻 10 号 521-527(2004. 10)
27. 友田 昭二. 有害事象の評価に関するコンセンサスを目指して MedDRA のもつ不整合性 入力者と出力者の意思統一を目指して. 臨床薬理 (0388-1601)36 巻 1 号 31-32(2005. 01)
28. 友田 昭二. 有害事象の評価に関するコンセンサスを目指して MedDRA のもつ不整合性 特に日欧米間における病名・診断基準の乖離と整合性確保の方策. 臨床医薬 21 巻 11 号 1071-1075(2005. 11)
29. 畑中 薫, 北村 幸彦, 笈 隆子, 他. 有害事象の MedDRA 用語選択における医学的留意点. 臨床薬理 36 巻 Suppl. S198(2005. 11)
30. 鈴木 博道, 清水 昇, 中須 弘平. セマンティック Web エンジンを用いた MedDRA/J のオントロジ化とその応用方法の研究. 医療情報学連合大会論文集 25 回 1317-1319(2005. 11)
31. 櫻井 靖郎. MedDRA 標準検索式(SMQ)の開発とその役割について. 医薬品研究 37 巻 5 号 347-361(2006. 05)
32. 鈴木 博道, 清水 昇, 足立 和夫. 医療オントロジーの基礎と応用 セマンティック Web を用いた MedDRA オントロジの開発とその利用方法の研究. 医療情報学 25 巻 6 号 447-455(2006. 06)
33. 畑中 薫. 薬剤投与後に生じたアナフィラキシーに関する MedDRA 用語選択上の問題点. 日本 Shock 学会雑誌 1 巻 1 号 50(2006. 04)
34. 畑中 薫. 有害事象の MedDRA 用語選択における医学的留意点. 臨床薬理 37 巻 5 号 317-318(2006. 09)
35. 櫻井 靖郎. 臨床現場にとって有用な副作用情報の報告・伝達・活用 医薬品の副作用/有害事象の報告・評価における MedDRA の意義と役割. 薬剤疫学 11 巻 Suppl. 22-23(2006. 10)
36. 櫻井 靖郎. MedDRA および MedDRA/J MedDRA および MedDRA/J とは? 概要と最近の動向. JAPIC J. 7 巻 99-108(2006. 11)
37. 田部井徹, 他. 安全性情報・症例の【日⇄英】翻訳. 技術情報協会 2007.1
38. 畑中 薫. 日本の医薬品添付文書と国際的な MedDRA 用語集におけるアナフィラキシーに関する用語の定義について. 臨床薬理 38 巻 2 号 115-117(2007. 03)
39. Hirofumi MAKINO, Masakazu HANEDA, Tetsuya BABAZONO. et al. 正常血圧及び高血圧の日本人 2 型糖尿病患者におけるテルミサルタンを用いたマイクロアルブミン尿症の抑制. Hypertens. Res. 31(4)657-664(2008. 4)
40. 山中 昇, 保富 宗城, 藤原 啓次. 急性咽喉頭炎,急性扁桃炎および急性鼻副鼻腔炎に対する azithromycin 単回投与製剤の多施設共同, 非盲検非対照試験. 日本化学療法学会雑誌 56(5)525-537(2008. 9)
41. 金子 周司. リスクマネジメント 院内での薬剤師の活動 薬物有害事象症例 AERS の医薬品名解決と薬物分類および化合物構造からの検索システム. 医薬ジャーナル 46 巻 1 号 125-132(2010. 01)
42. 杉原 大悟, 大熊 智子, 三浦 康秀, 外池 昌嗣 他. 表記ゆれ解消手法を利用した副作用表現の獲得. 医療情報学連合大会論文集 30 回 405-408(2010. 11)

43. 細見光一, 冢瀬諒, 朴ピナウル, 高田充隆. FDA 有害事象自発報告データベースを用いた抗精神病薬による有害事象シグナルの解析. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.2) 288-288 2011
44. 冢瀬諒, 細見光一, 朴ピナウル, 高田充隆. FDA 有害事象自発報告データベースを用いた分子標的抗がん剤による肝炎関連有害事象シグナルの解析. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.2) 289-289 2011
45. 細田 眞理, 橋口 正行, 望月 眞弓. ACE 阻害薬使用による高カリウム血症 血中カリウム上昇の関連要因の検討. 薬剤疫学 15(2)49-59(2011. 2)
46. 濱田 智子, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 プラゾシンとブナゾシンの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 68 巻 3 号 463-467(2012. 09)
47. 上杉 史, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 アテノロールとビソプロロールフマル酸塩の有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 68 巻 3 号 451-456(2012. 09)
48. 川上 準子, 佐藤 憲一, 他. 副作用情報の SOM を用いたビジュアル化と解析・糖尿病治療薬を用いて. 医薬ジャーナル 49(2)707-717, 592-596(2013. 2)
49. 佐久山 光平, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 ニトレンジピンとニソルジピンの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 295-300(2013. 02)
50. 鶴巻 夏紀, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 イブプロフェンとロキソプロフェンナトリウムの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 (0389-3898)69 巻 2 号 275-281(2013. 02)
51. 小池 一斗, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 ニザチジンとラニチジン塩酸塩の有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 283-288(2013. 02)
52. 奥野 穂奈, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 リルマザホン塩酸塩水和物とロルメタゼパムの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 267-273(2013. 02)
53. 木曾 俊斉, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 トラニラストとタザノラストの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 69 巻 2 号 289-294(2013. 02)
54. 平澤 美和子, 飯田 有香, 荒川 千佳, 他. 医薬品副作用被害救済制度において給付された生薬および漢方製剤が原因医薬品となった事例分析. 日本薬学会年会要旨集 133 年会 3 号 247(2013. 03)
55. 貫和 敏博, 貫和 敏博. Molecular Biology から呼吸器臨床を考える バイリンガル呼吸器内科医を育成して(8) 病因 関連遺伝子解析-肺胞微石症と薬剤性肺障害-. 日本胸部臨床 72(6)655-664(2013. 6)
56. 田中 佑典, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 トリクロルメチアジドとヒドロクロロチアジドの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 70 巻 2 号 249-254(2013. 08)
57. 田中 佑典, 土橋 洋史. 医薬品副作用症例データベースの応用 アムロジピンベシル酸塩とニルバジピンの有効性・安全性および経済性の比較検討. 医学と薬学 70 巻 2 号 255-261(2013. 08)
58. 中村光浩. 大規模副作用自発報告データベースの活用例 (FAERS 事例). 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1) 117-117 2014
59. 梅津 亮冴, 西端 友里, 鈴木 悠起也, 中村 光浩, 他. 日本国内の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いたデータマイニングによる経口血糖降下薬と低血糖症との関連性の評価. YAKUGAKU ZASSHI 134(2)299-304(2014. 2)
60. 水谷 紗弥佳, 小寺 正明, 五斗 進. FDA 有害事象自発報告データに基づく副作用の分類と特徴付け. 日本毒性学会学術年会 42. 1(0), S14-5, 2015

61. 高野 淳, 醍醐 弥太郎, 他. 抗がん剤の副作用と支持療法・より適切な抗がん剤の安全使用をめざして・III 抗がん剤の副作用に対する評価と処置 抗がん剤の副作用の評価(有害事象評価). 日本臨床 73(S2)75-78(2015. 2)
62. 中村 光浩. 医薬品・医療機器グローバル開発におけるレギュラトリーサイエンスの将来像 市販後副作用等ビッグデータ解析の実例. 日本薬学会年会要旨集 135 年会 1 号 216(2015. 03)
63. 松井利亘, 梅津亮冴, 加藤大和, 他. FAERS および JADER を用いた間質性肺炎に関する医薬品のシグナル検出. 医薬品情報学 17(3) 145-154 2015
64. 細見光一, 朴ピナウル, 冢瀬諒, 藤本麻依, 高田充隆. 非定型および定型抗精神病薬による錐体外路系有害事象の解析 - 日米の有害事象自発報告データベースを用いて - 医薬品情報学 17(3) 125-132 2015
65. 畑武生, 濱田武, 鈴木薫, 西原雅美, 勝間田敬弘. 国内の医薬品副作用データベース (JADER) を用いたデータマイニングによる抗精神病薬に関連した体重増加の性差および年齢差の解析. 日本病院薬剤師会雑誌 51(4) 411-415 2015
66. 細見 光一, 新居 万莉, 藤本 麻依, 高田 充隆. 日米の有害事象自発報告データベースを用いた解析の比較と活用展望 ニューキノロン系抗菌薬による有害事象の安全性シグナルを用いて. 医薬品情報学 (1345-1464)17 巻 1 号 15-20(2015. 05)
67. 細見 光一(近畿大学 薬学部臨床薬学部門臨床薬剤情報学分野), 新居 万莉, 藤本 麻依, 高田 充隆. 日米の有害事象自発報告データベースを用いた解析の比較と活用展望 ニューキノロン系抗菌薬による有害事象の安全性シグナルを用いて. 医薬品情報学 17 巻 1 号 15-20(2015. 05)
68. Yukiya Suzuki, Honami Suzuki, Ryogo Umetsu, et al. クロピドグレル, アスピリンおよびプロトンポンプ阻害剤の相互作用に関する FDA 有害事象報告システムのデータベースを用いた解析. Biol. Pharm. Bull. 38(5)680-686(2015. 5)
69. 坂田洋. 副作用情報データベースを使いこなすアプリを開発. 月刊薬事 57(5) 675-676 2015
70. Gahr M. , 他. Agomelatine および他の抗うつ剤に関連した肝毒性. Uppsala Monitoring Centre からの Pooled Pharmacovigilance Data を用いた不均衡解析. J. Clin. Pharmacol. 55 (7) 768-773(2015. 7)
71. 梅津 亮冴, 阿部 純子, 上田 夏実, 他. 日本国内の有害事象自発報告データベースを用いた一般用医薬品の有害事象発生傾向の調査. YAKUGAKU ZASSHI 135(8)991-1000(2015. 8)
72. 諏訪 清美, 大倉 征幸, 吉川 麗. バレニクリン酒石酸塩錠と意識障害および事故または怪我の関連性の検討. Prog. Med. 35(8)1371-1379(2015. 8)
73. 畠平 春奈, 松井 利亘, 加藤 大和 他. 有害事象自発報告データベースに基づくスタチン系薬剤による耐糖能異常新規発症リスクに関する研究. 医療薬学 42(2)98-106(2016. 2)
74. 中村光浩. 市販後副作用報告データ解析の実例. YAKUGAKU ZASSHI 136(4) 549—556 (2016)
75. 関山英孝, 水孝司. 医薬品副作用データベースの要約と副作用報告数に影響する要因の検討. 計量生物学 Vol. 37, No. 2, 89-100(2016)
76. Gahr M. , 他. 抗うつ性精神薬理療法に関連した薬物性肝障害. 異なる MedDRA 用語を用いた定量的シグナル検出に基づく探索的評価. J. Clin. Pharmacol. 56(6)769-778(2016. 6)
77. 岡 卓志(マイラン EPD), 浅野 陽子, 他. パンクレリパーゼ製剤(リパクレオン)の特定使用成績調査 慢性

- 膵炎および膵切除等による膵外分泌機能不全患者における長期使用に関する調査(原著論文). 診療と新薬 53 卷 11 号 1002-1012(2016. 11)
78. 榊原 麻貴, 酒井 隆全, 森 千与, 日野村 靖, 後藤 伸之, 大津 史子. FAERS を用いた授乳中に発生した乳児の有害事象報告の現状と分析. 医薬品情報学 18(2), 114-122, 2016
 79. Sakai T, Ohtsu F, Sekiya Y, Mori C, Sakata H, Goto N. Methodology for Estimating the Risk of Adverse Drug Reactions in Pregnant Women: Analysis of the Japanese Adverse Drug Event Report Database. Yakugaku Zasshi. 136(3) 499-505.2016
 80. 長島卓也 et al. "Prevention of antipsychotic-induced hyperglycaemia by vitamin D: a data mining prediction followed by experimental exploration of the molecular mechanism." Sci. Rep. 2016 May 20;6:26375.
 81. 大山 勝宏, 井上 みち子. 選択的 β アドレナリン受容体作動薬と血圧上昇との関連性. 日本の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた解析. 薬学雑誌 乙号 136(7), 1065-1071, 2016
 82. 畑武生, 濱田武, 鈴木薫, 西原雅美, 勝間田敬弘. 抗精神病薬服用男性患者における長期体重モニタリングの必要性 - JADER によるデータマイニング -. 日本病院薬剤師会雑誌 52(9) 1126-1130 2016
 83. 金子周司. 有害事象ビッグデータから副作用の分子メカニズムを解明. 医学のあゆみ 259(11) 1150-1151 2016
 84. 酒井隆全, 大津史子, 後藤伸之. 有害事象自発報告データベースの留意点と医療現場での活用事例. 月刊薬事 58(13) 2849-2852 2016
 85. 鈴木 悠起也, 岸 達生, 中村 光浩, 山田 博章. 医薬品添付文書の重大な副作用の追記に影響を及ぼす要因の解析. 医薬品情報学 19(1), 17-23, 2017
 86. 金子周司. クエチアピンによる高血糖のビタミン D による軽減. 分子精神医学 17(2) 133-134 2017
 87. 長谷川 葉, 加藤 大和, 大森 智史, 井口 和弘, 中村 光浩, 他. 有害事象自発報告データベースを用いた OTC 医薬品の解熱鎮痛消炎剤の有害事象発現傾向の調査. 薬学雑誌 乙号 137(10), 1301-1311, 2017
 88. 大山勝宏, 杉浦宗敏. JADER を用いたプロスタグランジン系点眼薬と喘息の関連性の評価 : β 遮断薬点眼薬との比較. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1) 808-808 2017
 89. Reith David M, Tilyard Murray W, Dovey Susan M, et al. Medication-related Harms to Paediatric Patients in Primary Care. 日本薬理学会年会要旨集 PO2-15-9, 2018
 90. 大山勝宏, 古本真也, 杉浦宗敏. 医薬品副作用データベースを用いた $\alpha 1$ 受容体遮断薬と失神および前失神症状との関連性の解析. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1) 927-927 2018
 91. 笹岡 沙也加, 上田 夏実, 平出 耕石 他. 有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた一般用医薬品の総合感冒剤による有害事象プロファイルの検討. 薬学雑誌 乙号 138(1), 123-134, 2018
 92. 駒田 富佐夫 . 低分子分子標的治療薬による血液に対する有害事象の発現時期に関する調査. 医薬品情報学 20(1), 29-35, 2018
 93. 槇田潤, 地寄悠吾, 松村千佳子, 矢野義孝. FDA 有害事象報告システム (FAERS) を用いた神経障害性疼痛治療薬の有害事象解析. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1): 1334-1334 2018
 94. 能登啓介, 平田敦士, 畑武生, 他. 国内の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いた抗アレルギー薬の鎮静等の有害事象に関する解析. 日本病院薬剤師会雑誌 54(1) 63-68 2018

95. 大山勝宏, 堀祐輔, 杉浦宗敏. FAERS を用いた $\alpha 1$ 受容体遮断薬と失神の関連性の検討 : 併発疾患による相違. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1) 930-930 2019
96. 虎石竜典, 大山勝宏, 竹内裕紀, 他. 日米の医薬品副作用データベースを用いたエベロリムスの蛋白尿発現時期の検討. 移植 54(suppl) 266-266 2019
97. 坂田洋, 高橋由加利, 鈴木大吾, 他. 日本の医薬品副作用データベース (JADER) を利用したスルファメキサゾール・トリメプリムによる高カリウム血症発症傾向調査. 日本病院薬剤師会雑誌 55(5) 525-531 2019
98. 太田涼介, 平田敦士, 畑武生, 他. 有害事象自発報告データベース (JADER) を用いたニューキノロン系抗菌薬の横紋筋融解症に関する解析. 日本病院薬剤師会雑誌 55(6) 619-624 2019
99. 平 雄文, 大磯 茂, 仮屋 博子. 医薬品副作用データベースを用いた薬剤性急性膵炎発症リスクの解析. 医療薬学 45(8)441-450(2019. 8. 10)
100. 座間味義人, 合田光寛, 石澤啓介. 薬剤疫学の応用 2 ドラッグリポジショニング. 日本病院薬剤師会雑誌 55(8) 919-921 2019
101. 釜野純二, 牛尾聡一郎, 江角悟, 北村佳久, 千堂年昭. 医薬品副作用データベース (JADER) を用いた抗不整脈薬とクラリスロマイシン併用によるトルサード・ド・ポアント発現の解析. 日本病院薬剤師会雑誌 55(11): 1286-1290 2019
102. 大矢 和幸, 安部 賀央里, 頭金 正博. JADER を用いた医薬品の重症皮膚副作用の予測. 日本毒性学会学術年会 46. 1(0), P-75S, 2019
103. 金子絵里奈, 高木博子, 石橋久, 園田正信, 家入一郎, 山野徹. 薬局疑義照会の Drug Related Problems (DRPs) に関する研究 (2)-MedDRA 分類に基づいた副作用の発現事例と回避事例の比較-. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1): 703-703, 2019.
104. 大山勝宏, 堀祐輔, 杉浦宗敏. FAERS を用いた $\alpha 1$ 受容体遮断薬と失神の関連性の検討 : 併発疾患による相違. 日本医療薬学会年会講演要旨集 (suppl.1): 930-930 2019
105. HAGA Tomohiro, TAKI-TAKEMOTO Iori, MURASE Remi, KAMEI Daisuke, IWAI Shinichi. Risk of Drug-Induced Accidents and Injuries in Elderly Patients Treated with Specific Drugs Rather than Polypharmacy. Analyses of the Japanese Adverse Drug Event Report Database. The Showa University Journal of Medical Science 31(2), 125-137, 2019
106. 高田 和季, 安部 賀央里, 頭金 正博. 大規模副作用データを利用した機械学習による薬物性肝障害の予測手法の開発. 日本毒性学会学術年会 47. 1(0), P-96S, 2020
107. 岡田直人, 座間味義人, 石澤啓介. 5 腎疾患 「FAERS を用いた薬剤関連急性腎障害の解析」. 月刊薬事 62(1) 156-157 2020
108. 小林 由貴, 酒井 久美子, 題府 由吏, 中村 裕義. 28P-pm124 医薬品副作用データベース(JADER)を用いたアゾール系抗真菌薬の副作用報告の調査解析. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020
109. 長谷川 栞, 池末 裕明, 中尾 智, 他. 28P-pm099 JADER を用いた免疫関連有害事象の解析. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020
110. 島田 和代, 長谷川 栞, 中尾 智史, 他. 28P-pm100 有害事象報告データベース(FAERS 及び JADER)を用いた ifosfamide 誘発性脳症の評価. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical

Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020

111. 鈴木 優果, 永井 純子, 黒崎 宏太, 増山 雄平, 植沢 芳広. 27Q-am126S 副作用データベースを用いたエストロゲン製剤が誘発する副作用の探索. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020.
112. 金子 周司, 長島 卓也, 戸田 千尋, 酒井 幸, 永安 一樹. S43-1 序論:どんなデータがあつて何にどう有用なのか?. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020
113. 中村 光浩. S43-3 医薬品適正使用に生かす有害事象自発報告データベース解析. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020
114. 高田 充隆. 医療ビッグデータを活用したドラッグリポジショニングシグナルの検出.[S43] 医療ビッグデータを薬物治療と創薬に活かす. The 140th Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Kyoto). March 25th-28th, 2020.
115. 向井 潤一, 丸山 沙季, 尾鳥 勝也, 久保田 理恵. JADER を用いた抗うつ薬による高血糖/糖尿病の発症の可能性に関する検討. 薬学雑誌 140(4), 591-598, 2020
116. 酒井 隆全, 和田 侑輝人, 古閑 晃, 田辺 公一, 後藤 伸之, 大津 史子. 日本の有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた研究におけるチェックリストの作成と実態調査. 医薬品情報学 22 巻 1 号 7-16(2020. 05)
117. Eiko Iwasa, Yu Fujiyoshi¹, Yuki Kubota¹, Ryota Kimura¹, Rebecca E., et al. Interstitial Lung Disease as an Adverse Drug Reaction in Japan: Exploration of Regulatory Actions as a Basis for High Reporting. Drug Safety 43:1121–1131(2020)
118. 長谷部 裕子, 神蔵 巧, 春名 成則. 糖尿病を有する膵外分泌機能不全患者におけるパングレリパーゼ製剤(リパクレオン)投与量別の安全性および有効性. 診療と新薬 57(8)799-812(2020. 8. 28)
119. 内田 まやこ. がん治療の有効性と安全性の評価基準. 薬局 71 巻 11 号 3408-3412(2020. 10)
120. 大山 勝宏, 笹崎 慧大, 平川 圭史, 田中 博之, 堀 祐輔. 日本の医薬品副作用データベースを用いたエベロリムス使用による糖尿病発現の時間解析. The 141st Annual Meeting of the Pharmaceutical Society of Japan (Hiroshima). March 26th-29th, 2021
121. 番匠谷 研吾, 木村 光, 中村 徹也 他. 有害事象自発報告データベース(JADER)を用いた医薬品による水中毒に関する解析. 医療薬学 47(2)91-95(2021. 2. 10)
122. Misaki Inoue, Kiyoka Matsumoto, Mizuki Tanaka, et al. Analysis of chemotherapy-induced peripheral neuropathy using the Japanese Adverse Drug Event Report database. Scientific Reports volume 11, Article number: 11324 (2021)